

資質・能力の活用・発揮のために，系統表や他領域の学習を単元構想に生かすアイデア

実践場面

高等学校 1 学年～ 2 学年

「話すこと・聞くこと」における単元構想場面

ねらい

「十分に実施されていない」と指摘のある「話すこと・聞くこと」の領域の学習を円滑に進めるために，系統表や他領域で身に付けた資質・能力を活用して単元構想をし，活性化を目指す。

【アイデアのポイント】

系統表や他領域の学習を活用することによって，「話すこと・聞くこと」の単元構想がしやすくなるのではないかと，という発想から作成したアイデアです。

こんな悩みはありませんか



やらなければいけないとは分かっているけれど、「読むこと」の授業で精一杯…。

テーマを変えているだけで、いつも同じような授業になってマンネリ化しているなあ。



系統表の活用や他領域での学習を活用して、その課題を解決していきましょう。

アイデア①

学習指導要領の系統表を参考に、高等学校で身に付ける資質・能力を明確にして年間計画に生かす。

【参考 小学校第5学年及び第6学年～高等学校の「話すこと・ア」についての記載の比較】

○話題の設定，情報の収集，内容の検討

小学校第5学年及び第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年	現代の国語
ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。

※赤文字は、比較のために本センターが変更



「日常生活→社会生活→実社会」と記述が変化していますね。中学校までの学習を踏まえて、高等学校では、社会的な話題や国際的な話題、文化や地域に関する話題など、視野を広げた事柄をテーマに設定してみてもいいかな。

「様々な観点から情報を収集」という記載が高校から入ってきますね。立場や文化的背景の相違などを、より具体的に取り上げながら情報を収集するには、どんな方法が適切かしら。





「実社会」に注目して、「話すこと・聞くこと」の単元を構想してみよう。

【受講者の方からのアイディア】

- ・ 新聞を題材に、話すことや聞くことのテーマを設定したり、新聞によって記事の取り上げ方や論調に違いがあることを比較したりする単元を構想する。
- ・ 社会で起こっている事柄やそれに対する自分の意見を考えて、スピーチする。
- ・ ニュースなどで興味をもった事柄について、賛成・反対の立場を明らかにして話し合いを行う。
- ・ ICT機器を活用して、社会人や、様々な立場の人からの話を聞く。

「様々な観点から情報を収集」に注目して、単元を構想できないかしら。



【受講者の方からのアイディア】

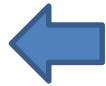
- ・ インターネットで調べることは簡単にできるが、それだけではなくて、新聞や書籍など、他の資料やメディアとの比較を単元の中に組み込む。
- ・ 情報の妥当性や信頼性の判断についての学習が不足していると思う。あるテーマについての情報をもち寄り、その信頼性や妥当性について話し合う学習ができるのではないか。
- ・ 集めた情報を整理することも大切なので、「書くこと」で学習するメモやイメージ図などの思考ツールも活用して単元構想ができるのではないか。

アイデア②

学習指導要領の内容の一覧を活用し、資質・能力のバランスの良い配置や関連性を踏まえた年間計画を作成する。

話すこと・聞くこと

		(高) 現代の国語	(高) 国語表現
(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項			
話すこと	話題の設定	ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集		
	内容の検討		
	構成の検討	イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。	イ 自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。
	考えの形成		ウ 自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫すること。
表現	ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。	エ 相手の反応に応じて言葉を運んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫すること。	
共有			
聞くこと	話題の設定	【再掲】 ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集		
	構造と内容の把握	エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。	オ 論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりすること。
	精査・解釈		
	考えの形成		カ 視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりすること。
共有			
話し合うこと	話題の設定	【再掲】 ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集		
	内容の検討		
	話し合いの進め方の検討	オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。	キ 互いの主張や論拠を吟味したり、話し合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。
	考えの形成		
共有			



「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説p326～の「教科の目標、各科目の目標及び内容の系統表」の一覧を活用します。左に示しているのは、「現代の国語」「国語表現」で育成すべき資質・能力の一覧です。

この一覧の記載をもとに、各学期に1回、年3回の「話すこと・聞くこと」の単元を設定する形で年間計画に位置付けていきます。

「資質・能力」の全体像を把握しておくと、目標達成に向けた学習活動も設定しやすいですね。また、同じような活動が繰り返されてしまうという課題も改善できそうです。



【研修講座の様子から】

実際に、研修講座の中で計画を作成してみました。講座には、小・中・高・特支の校種の先生方が参加されましたが、それぞれの校種の学習指導要領の系統表を使って、

- ①育成すべき資質・能力をピックアップする。
- ②①の達成に向けて有効な学習活動を設定する。
- ③単元の概要が固まったら単元名を付ける。

の順で年間計画の作成に取り組みました。「単元名」や「学習活動」を先に設定してしまうと、同じような資質・能力についての単元ばかり扱ってしまうことが多いので、この手順で行った点がポイントです。



作成した年間計画についての協議

作成した計画例①

各学期に1単元「話すこと・聞くこと」の授業を取り入れる計画を立てましょう！

校種・学年【高等学校1年生】

学期	単元名	どんな資質・能力を育成するか	学習活動
1	新聞を活用しよう	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。（「話すこと」ア）	さががけこども新聞から記事の一つを選び、簡単に説明をしたり、記事に対する意見を述べたりする。
2	新聞を作ろう	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫する。（「話し合うこと」オ）	「テーマの設定」「見出し」「記事の内容」「役割分担」などについて、各グループで話し合い、新聞作りに向けた構想を練る。
3	地域の昔話を紹介しよう	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫する。（「話すこと」ウ）	校外学習で収集した昔話について、伝える方法を工夫しながら、クラスに紹介する。

資質・能力をバランスよく配置

学習活動にも目的意識が生まれる

作成した計画例②

各学期に1単元「話すこと・聞くこと」の授業を取り入れる計画を立てましょう！

校種・学年【中学校2年生】

学期	単元名	どんな資質・能力を育成するか	学習活動
1	ビブリオバトルをしよう (話すことに重点)	自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫する。 (「話すこと」イ)	話の構成に注意しながら、これまで読んだ本について紹介し合う。
2	職場体験の報告をしよう (聞くことに重点)	論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。(「聞くこと」エ)	メモの取り方の工夫について指導した上で、聞く側はプレゼンを聞き、ポイントをまとめる。また、プレゼンテーションソフトを使って、効果的な発表方法について検討する。
3	地域の魅力を紹介しよう (話し合うことに重点)	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる。(「話し合うこと」オ)	「地域の魅力を伝える」というテーマでパネルディスカッションを行う。

重点を置く部分を明確にして設定することで、目的がはっきりし、評価もしやすくなる

見通しをもつことで、学習活動にも様々なバリエーションが生まれる

アイデア③

「読むこと」や「書くこと」の学習で身に付けた資質・能力を、「話すこと・聞くこと」の学習に生かす。

これまでに他領域で学習してきたことを生かせば、「話すこと・聞くこと」の授業も設定しやすくなりますね。



(例)

- ・「読むこと」で学習した論の展開「はじめ・なか・おわり」や「起・承・転・結」の構成を用いて自己紹介やスピーチをする。
- ・「読むこと」で学習した内容を参考に、テーマを決めてプレゼンテーションを行う。
- ・「書くこと」で学習した様々な文章の形態を振り返り、相手や場面に応じた話し方と内容について検討する。
- ・「書くこと」で学習した構成メモや発想を広げたり整理したりする手法を基に、スピーチ原稿を作成する。

など。



学習してきたことが、次の学びに生かされることを実感できれば、学習意欲の向上にもつながりそうですね。